

福祉サービス第三者評価 評価結果

横浜市港北保育園

横浜市港北区仲手原 2-20-19

運営主体：横浜市

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類別評価結果	6～14 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	15～22 ページ
利用者本人調査分析	23～24 ページ
事業者コメント	25 ページ

2008年2月6日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	横浜市港北保育園	
報告書作成日	2007年11月24日	評価に要した期間 4ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:07年8月1日~07年9月3日 前年度から事前勉強を開始</p>	<p>19年度の第三者評価受審に向けて、18年度に臨時会議を持ち、第1回目の読みあわせを行った。そこで自己評価に対する意見をそれぞれ出し合い、第1回目の全体評価をまとめた。</p> <p>19年度は、毎日のミーティングで、1~3項目程度ずつ項目の意味を確認し、その場で個々の評価を記入。最終的にはアルバイトも含めて全員が期日までに個々の評価を提出。第1回目のまとめも参考にしながら、園長が最終的にまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:07年7月25日~07年8月15日</p>	<p>全園児の保護者(85家族)に対して保育園側から手渡し。各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日07年9月25日 第2日07年10月3日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前:各クラスにて保育観察。 昼食:3、4、5歳児クラスで園児と一緒にいただく。 乳児クラスでは同席して観察。 午後:書類調査及び園長・主任に面接調査。 夕方は降園の様子を観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:朝は登園の様子を観察。 その後、各クラスにて保育観察、書類調査 昼食:4、5歳児クラスで園児と一緒にいただく 午後:主任、各クラス担任の保育士6名、調理員、福祉員代表に面接調査。その後園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日07年9月25日 第2日07年10月3日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施。園庭での遊びにも同行した。</p> <p>聞き取り調査は、5歳児以上の園児を中心に、観察調査時及び昼食同席時に、適宜実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

横浜市港北保育園は、東急東横線「妙蓮寺」駅より徒歩5分の位置にあります。1949年（昭和24年）8月、横浜市により開設され、半世紀以上の保育の歴史を刻んできました。定員は92名で、定員外で若干の園児を受け入れ、0歳児から5歳児まで、年齢別に6クラスの編成です。

港北保育園は、「子どものあるがままの姿を受け入れ、励まし認めながら保育する」「互いを認め合い大切にする保育を心がける」「豊かな環境のもとで子どもの可能性を広めていく」「子育ての喜びを保護者と共有する」の4つを保育姿勢に据えて、日々保育に努めています。同時に、当園は港北区の育児支援センター園として、地域の子育て支援の中心的役割も果たしています。

園は、旧綱島街道沿いの住宅地の中にあり、公園に隣接し、近くには小学校や由緒あるお寺があります。近隣には樹木も多く、落ち着いた環境に囲まれています。園舎は二階建てで、園庭とともに南に面していて、1982年（昭和57年）に現在の姿に改築されています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、明るく、のびのびと、仲良く園生活を送っています

子どもたちは明るく、のびのびと、仲良く園の生活を楽しんでいます。

遊びの時間は十分に確保されており、子どもたち一人ひとりが自分のペースでのびのびと遊び込んでいます。室内では、保育士の話を集中して聞いています。自由時間ではブロック・お人形・電車とレール等を使ったごっこ遊びや、お絵かきなど自分の好きな遊びに熱中しています。遊びの時間が過ぎて片付けとなると、子どもたちは全員でそれぞれの箇所へきれいに戻しています。

園庭では、ジャングルジム、鉄棒、かけっこ、フラフープ、砂場遊び、と変化に富んだ園庭を自由に使って、元気よく身体を動かしています。また、庭の隅の草花を摘み、ダンゴムシやバッタをつかむなど、直接自然に触れています。そして、年長児は、年少児の遊びの相手をしたり、手助けをしたりしています。子どもたちは思いやりの気持ちを育みながら園生活を楽しんでいます。

子どもたちの生活の中に、園目標の「自分に自信を持てる子ども」「自分も人も大事に思う子ども」「豊かな感性を持ち、いきいきしている子ども」などが自然と実践されているとうかがえました。

2、職員は、主体性を持って安定した保育をしています

経験3年未満の保育士から経験豊かな保育士と、調和のとれた職員構成となっています。

保育士は子どもたちの姿をよく観察しています。遊びでは、少し距離をおいて静かに見守り、時々アドバイスを与えています。声のかけ方も静かな語り口であり、子どもたちも素直に言うことを聞いています。子どもたちのけんかでは、お互いの言い分をよく聞いて納得できるようにしています。保育姿勢にある「互いを認め合い大切にする保育」が進められています。

保育室内のおもちゃ、絵本、クレヨンやはさみ、制作のための素材等は、自由にしやすい場所にあり、また片付けやすくなっています。同様に砂場遊びの道具に関しても、「スコップ」「ふるい」「きしゃ」「くるま」等の絵を貼り付けたケースが個々に用意されており、子どもたちはケースから取り出し、片付けています。子どもたちが自由に自主的に遊べるための配慮と工夫が活きています。

保育士は園内外の研修などにより自己研鑽に努めています。また、地域の子育て支援活動に参画することを通して、家庭における子育ての悩み等を知り、日々の保育に活かしています。

そして、園長の豊富な知識と経験は、日々の実践を通して職員たちに伝えられ、職員の主体性がある安定した保育に寄与しています。

3、区との連携により、地域の育児支援センター園として大きな役割を果たしています

当園は、港北区の育児支援センター園の指定を受けています。地域支援担当の保育士が配置され、園の保育士も加わって積極的な地域の子育て支援に努めています。

子育て支援に係わる要望を、地域のボランティア組織との交流、育児相談、園庭開放における保護者との交流などを通して把握し、区と連携して地域の子育て支援の取り組みを進めています。

具体的な取り組みとしては、週4回の園庭開放、夏期のプール開放、随時受け付けの育児相談、月2、3回のランチ交流、7月と10月に開催する3歳児を対象にした交流保育などがあり、地域の育児支援センター園としての機能を果たしています。さらに、担当の保育士だけでなく、園の保育士も講師となって開催する育児講座、これから育児をしていこうとする父親母親を対象とした「プレパパ・プレママ応援隊」への支援、地域の赤ちゃん会への施設提供など、多岐にわたるプログラムに取り組んでいます。

ここには、園長の地域の子育て支援に対する想い、保育園に入所できなかった親子まで含めて支援したいとの公の施設としての役割意識とともに、地域支援担当保育士及び園の職員の真摯な取り組みの成果が見られます。同時に保護者や地域住民の理解にも助けられています。

今後とも地域のニーズに応じた育児支援事業に、継続的に取り組むことが望まれます。

改善や工夫が望まれる点

保護者とのより一層の連携・相互理解を

園は、懇談会、園だよりのほか、保護者へのさまざまなお知らせを通して保護者との連携、信頼関係の構築に努めています。個々の保護者との日常的な情報交換としては、個別面談、連絡ノート（乳児クラス）やクラスノート（幼児クラス）のほか、園と保護者を結ぶ連絡メモを、送迎時に必要に応じて取り入れています。また、保護者会の支援・協力も得て、夏祭り、運動会、遠足などを開催しています。

しかし、園児家族アンケートでは、安定した保育内容に対して高い満足が示されていますが、「行事の開催日や時間帯」「お子さんの様子に関する説明」「意見や要望への対応」などについての設問は、必ずしも満足度が高くありません。園の職員は鋭意努力を重ねていますが、保護者はさらに、保育園生活を通してわが子の成長を保育士とともに喜び合えるように、園との連携・相互理解をより深めることを望んでいるとうかがえます。

今後、送迎時の保護者とのコミュニケーションを工夫する、または保護者の意見や要望を述べられるような方法（例えばアンケート）を取り入れる、などにより保護者がいつでも職員に話しかけられる雰囲気作りについてさらに検討し、保育姿勢の一つである「子育ての喜びを保護者と共有する」が自然な形で築かれることが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 園目標「自分に自信を持てる子ども」「自分も人も大事に思う子ども」「豊かな感性をもち、いきいきしている子ども」や、保育姿勢「子どものあるがままの姿を受け入れ、励まし認めながら保育する」「互いを認め合い大切にする保育」などは、子ども本人を尊重したものになっています。
- ◇ 守秘義務の遵守、個人情報の取り扱いに関しては、規定により職員に周知を図っています。また、ボランティアや実習生にも、オリエンテーション時に文書を渡し説明しています。
- ◇ 児童虐待については、研修などを通して全職員が共通理解をしています。また、常に子どもを観察し、虐待の早期発見に努めています。なお、虐待が疑われる場合には、関係機関と連携が取れるような体制となっています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 園目標や保育姿勢は、子どもの自主性・主体性を育むものとなっています。園では子どもが主体的に活動できる環境を形作っています。保育士は、子どもの力を信じ温かく見守る姿勢で、子どもが友達と一緒に育ちあい、自分の思いを表現でき、基本的な生活習慣を身に付けられるような環境づくりを目指しています。
- ◇ 子どもたちは、散歩の際に地域の人々と挨拶を交わすほか、高齢者支援のボランティアグループの活動に参加したり、隣接の公園で開かれる夏祭り（盆踊り）や秋祭り（おみこし）に参加したりすることを通して、地域の人々と交流しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、園目標や保育姿勢に基づき、保護者の実状にも配慮して作成しています。さらに地域との連携状態も考慮して作成しています。
- ◇ 指導計画の作成・評価・見直しに当たっては、職員会議・カリキュラム会議・乳児会議・幼児会議等を通して、全職員が関わり、子どもの状況に応じて対応しています。
- ◇ 第三者委員に直接苦情を申し立てることができるよう、「ほいくえんのしおり」に記載して保護者へも伝えています。また、事務室前に意見箱を備えて書面での要望・苦情の申し入れに備えています。
- ◇ 健康管理、衛生管理、安全管理等に関する各種マニュアルを整備して、全職員に周知徹底を図っています。事故や災害に対する緊急連絡体制も確立していて、避難訓練も定期的を実施しています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 港北区の育児支援センター園として、園庭開放、プール開放、交流保育、育児相談、これから親になる方たちに対する「プレパパ・プレママ応援隊」の開催、地域の赤ちゃん会への施設提供など、意欲的に活動しています。
- ◇ 地域の自治会との交流・連携があります。自治会主催の夏祭り（盆踊り）や秋祭り（おみこし）への参加、地域の人々を運動会などの保育園の行事へ招待する、保育園からのお知らせを自治会の掲示板に掲示するなどの交流・連携を深めています。
- ◇ 区福祉保健センター、北部児童相談所、横浜市総合リハビリテーションセンター、区社会福祉協議会など地域の関係機関とは、密接な連携を保っています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 事業者として守るべき法・規範・倫理等については、規定の中に明記されており、職員に周知徹底を図っています。
- ◇ 園長は重要な意思決定に際しては関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり、説明したりする仕組みを取り入れています。
- ◇ 園目標を各所に明示し、職員に周知徹底を図っています。職員は日々その実践に努めています。
- ◇ 園長は事業運営に影響のある情報を収集・分析し、外部環境の変化に対応して、園目標や保育姿勢を実現するための取り組みを行っています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 人材育成は、職員の要望も考慮した研修計画に基づき、外部研修に積極的に参加しています。また、職員の要望・問題意識も考慮したプロジェクト方式の園内研修を行っています。今後、研修の成果を評価・分析して次の研修に反映させ、さらなる職員の資質向上に結びつけられるよう工夫することが望まれます。
- ◇ 職員は、個々に資質向上に向けた目標を毎年定め、年2回の園長面接を通して達成度の確認・評価を受けています。
- ◇ 実習生の受け入れは実習実施要綱に基づいて行っています。実習生には、主任が担当となって指導を行い、終了後には意見交換会を設けて実習の成果を確かなものにしていきます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。






「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園目標、保育姿勢は、子どもを尊重したものになっており、園長は、年度の初めに全職員に説明しています。また、園目標は事務室及び各クラスに掲示して、日々の保育に活かしています。 保育計画は、園目標や保育姿勢に基づいて作成していて、地域の実態や保護者の実状なども考慮しています。 日常の保育を通して汲み取られる、子どもの意見や意思は、毎月開催の、カリキュラム会議、乳児会議・幼児会議において話し合わせ、指導計画に反映しています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園時の子どもの状況は、入園説明会における保護者との面接や、保護者から提出される児童票により把握しています。 入園時に、保護者へ配布する「ほいくえんのしおり」の中で、短縮保育（ならし保育）など、保育園の生活を説明しています。また、保護者との日々の情報連絡手段として、乳児については個人連絡帳を使用しています。 毎月開催のカリキュラム会議において、子どもの発達や状況に応じた指導計画を作成し、評価・見直しを行っています。
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが快適に過ごせる環境を確保するため、衛生管理マニュアルに基づき、園内外の清掃、通風、換気等に留意しています。また、各クラスには、クーラーやガス暖房機が設置してあり、温度計・湿度計により温湿度は適正に管理しています。 沐浴設備、温水シャワーなど身体を清潔にできる設備を備えています。 低年齢児のクラスには、小集団保育が行えるように小さなコーナーを設けています。食事や午睡のための空間は工夫していて、子どもの発達に応じた環境が確保されています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児には個別指導計画があり、個人差に応じた目標のもとに作成しています。
- ・3歳児以上についても、特別な課題がある子どもがいれば個別指導計画を作る他、配慮を要する事柄を一人ひとりの月間指導計画に書き入れています。
- ・個別指導計画・児童票・保育経過記録・健康に関する記録は、見直しや子どもに変化がある度に記入していて、重要な部分については、保護者への伝達や話し合いもよくしています。
- ・記録は全職員で共有していますが、事務室の施錠できる書庫に保管され、鍵は園長が管理するなど個人情報の取り扱いにも配慮しています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れ、その子どもに応じた対応に努めています。子どもたちもそれを受け止め、子どもたち同士、自然に関わっています。
- ・職員は適切な保育ができるように話し合い、研修を受け、情報を共有しています。
- ・障がいのある子どもについては、保護者の同意のもとに横浜市総合リハビリテーションセンターなどの指導・助言を受け、保育に活かしています。
- ・アレルギー疾患のある子どもにも、その子に配慮した対応をするとともに、他の子どもたちにもよく説明をして、両方の気持ちに配慮しています。
- ・特に食物アレルギーについては、マニュアルに基づき、保育士と調理員が連携し、必要に応じて除去食や代替食を提供しています。その際、間違いのないように、お盆の色を変えています。
- ・文化や生活習慣の違う子どもに対しては、日本の習慣を説明しますが、それを強制することはなく異文化を尊重しています。また、他の子どもたちも含めて、異文化を学ぶ機会ともしています。
- ・外国籍などで日本語をよく理解できない保護者には、配布物にふりがなをつけたり、ひらがなで手紙を書いたり、見本を見せたりするなどの支援をしています。



当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。





- 6 苦情解決体制



- ・保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすいように、事務室入り口に意見箱を備えており、また、第三者委員の仕組みを紹介しています。保護者の意見・要望は、保護者懇談会や個人面談においても受けられるようにしています。
- ・要望や苦情があった場合には速やかに対応しています。その内容や解決策は、職員会議等を通じて職員に説明し、理解・周知を図っています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルバイトも含めた職員全員がどれかに参加している4つのプロジェクトの中に「遊びと環境プロジェクト」があり、年齢や発達状況にふさわしい環境構成を話し合い、子どもの発想を広げるようなおもちゃを整えるなど、子どもが主体的に活動できるように支援しています。 ・ 遊びが一斉活動に偏らないように、自由遊びの時間を十分にとっています。保育士は常に全体を見守りながら、必要に応じた声かけや見本をみせるなど、自由遊びの中で子ども一人ひとりが興味・関心を持って遊べるように援助をしています。 ・ アサガオや、サツマイモ、オクラなどの栽培をして、生育過程の観察をしたり、園庭の草むらにいたるチョウやバッタを観察して生態を学んだりしています。 ・ 幼児クラスでは、毎週リズム遊びの時間を設け、子どもの年齢や発達状況にあわせて表現力を身につけるように支援しています。 ・ 園庭では、異年齢の子どもが自然にふれあう機会があります。 ・ 職員は、常に全体を見守り、温かい態度・言葉遣いで子どもに接し、子どもとの信頼関係を築いています。 ・ けんかが起きたときには、できるだけ子ども同士で解決するように保育士が支援しています。 ・ 子どもの既往歴や健康状態に合わせて、遊びへの配慮をしています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食は残さないように強制するのではなく、食べる前に、子どもの希望を聞いて食べきれぬ量に減らし、嫌いな物でも食べられたら褒めるなど、子どもの負担にならないように配慮をしています。 ・ 調理担当者は交代で、給食の様子を観察や、食材の説明をするなど、子どもたちに接する機会を設けています。また、毎日の職員ミーティングで、保育士から給食への感想や意見を聞き、子どもの好き嫌いを把握し、盛り付けや調理方法を工夫しています。 ・ 保育講座「手作りおやつ」講習会の開催時には、献立表を事前に配布して、献立作成のポイントなどの情報を家庭に提供しています。 ・ 子どもには午睡を強要せず、年長児は3月になると午睡をしない日を設けています。 ・ トイレトレーニングは一人ひとりの発達状況に応じて、保護者と相談をしながら個別に対応しています。



<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の子どもの健康状態は、必要に応じて、乳児は個人連絡帳、幼児は連絡メモを使って保護者に伝え、家庭と連携した対応ができるように情報を共有しています。 ・ 健康診断の結果に基づき、保護者を通して主治医の診断書や意見書をもらい、保育に反映しています。 ・ 保育中に発症したときは、速やかに保護者に情報を提供し、保護者の事情も考慮しながら対応しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生管理は、マニュアルに基づき、適切に行っています。 ・ 巡回看護師が年2回来訪する機会を、職員の勉強の場にあてています。さらに、マニュアルの内容を全職員が共有し適切に実行するため、今後も継続的に研修を実施することが望まれます。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員は、救急救命法の講習を受けています。さらに、消防署から講師を招き、保護者を対象とした講習会も予定しています。 ・ 子どものケガについては、軽傷であっても必ず、個人連絡帳や連絡メモを使い、保護者に状況を報告した上で、職員ミーティングで反省と対策について検討を行い、再発防止につなげています。 ・ 毎月実施の防災訓練の中には、年4回の「不審者対応訓練」を加えています。 ・ 保護者、子どもたち（特に就学を控えた子）の防犯の意識を高めるため、「命と安全を守る講演会」を開催しています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの人権の尊重について、職員は研修を受け、理解しています。 ・ 子どもは温かみのある言葉かけをされ、自発的に行動できるように見守られています。 ・ 特別室や保育室の一角など、子どものプライバシーを守ることができるスペースが有り、そこで自由に過ごしたり、友達に知られずに保育士と話したりすることができます。 ・ 個人情報の取り扱いや守秘義務については、保育所保育指針や市の条例などを職員に周知するだけでなく、ボランティアや実習生にもオリエンテーション時に説明しています。 ・ 個人情報に関する記録は、事務室の施錠できる書庫に保管し、園長が鍵の管理をしています。写真など個人が特定されるものについては、保護者の了解を求めています。個人連絡帳も、集めたら人目につかないところに保管するなど、工夫しています。 ・ 虐待について、職員は研修を受け、研修内容は全職員で共有しています。 ・ 虐待の早期発見に努め、地域支援事業担当者や区とも連携しています。また、保護者に対しても必要な支援ができるようにして、保護者が不安を取り除けるよう、よく話し合い関係づくりに努めています。 ・ 子どもたちに性差による固定観念を持たせないよう、言葉、役割、持ち物、順番などに配慮しています。

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 各保育室に園目標を掲示し、保護者にも理解されるよう努力しています。さらに保護者に理解されているかを確かめるために、アンケートを取るなどの工夫が望まれます。
- ・ 担当保育士は引き継ぎノートに子どものその日の様子を記載し、福祉員が子どもの送迎時に、保護者に伝えられるようにしています。必要がある時には担当保育士が保護者のお迎えの時間まで残り、直接口頭で伝えています。
- ・ 保護者から相談があった場合、相談を受けた職員が適切に対応できるよう、園長が助言する体制になっています。
- ・ 毎月「園だより」を発行し、月の予定の他、手遊びの紹介や感染症の情報、園での子どもたちの様子などを保護者に伝えています。
- ・ 保育参加の受け入れ期間を1週間設定し、保護者の参加を積極的に受け入れています。両親だけでなく祖父母の参加もあり、半分くらいの保護者が参加しています。
- ・ 保護者が自主的な活動をできるように、申し込みがあれば、特別室や空き保育室を提供しています。また、遠足など保護者組織と共催で行う行事があります。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民に対する育児相談や区の地域育児支援担当者から得る他の園の情報などから、地域の子育てニーズを把握しています。 ・ 横浜保育室との連携や、公園愛護会、高齢者支援団体など、地域のボランティア組織や地域住民との交流を通して、施設に対する要望を把握しています。 ・ 港北区の育児支援センター園として、地域での子育てを支援するために、「ランチ交流」「園庭開放」「プール開放」「交流保育」などを行っています。その他、これから親になる方たちに対して、「プレパパ・プレママ応援隊」を区の助成を受けて年3回開催していて、専門性を活かした地域子育て支援をしています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 港北区の育児支援センター園であり、電話による育児相談の受付、ランチ交流などの育児支援事業を行っています。また、区の地域支援担当者も週3日在園して、本事業に専任して担当しています。 ・ 園庭開放などで来園した親から受ける相談については、園として対応するだけでなく、地域支援担当者を通して区と連携して対応する関係ができています。 ・ 地域の育児支援事業の講座のときに、園の職員が講師として協力するなど、区の地域支援担当者との日常的な連携を活かしています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接の公園で開催する運動会、園庭で開催する移動動物園や人形劇には、地域の住民（主に子どもたち）を招待しています。また、自治会の夏祭り・秋祭りへの参加など、保育園の地域開放、地域コミュニティへの働きかけを行っています。 ・公園での遊びや商店街の散歩、小・中学校との交流、また高齢者支援団体への参加などを通して、子どもたちは園生活を充実させ、地域への理解を深めています。 ・また、区の育児支援センター園としての活動の中で、子どもたちはさまざまな場面で地域コミュニティと関わっています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットやホームページ等により、地域や関係機関に随時、園の情報を提供しています。また、地域の自治会掲示板や区役所の広報コーナーも利用して、園の情報を提供しています。 ・保育園の利用希望者に対して、園の基本方針や利用条件・サービス内容等について、パンフレット等を使用して説明しています。また、希望すればいつでも見学ができることを案内しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに向けてパンフレットを準備しています。受け入れにあたっては職員会議において基本的な考え方や方針を説明しています。 ・実習生の受け入れは横浜市の実習実施要綱に基づき行っています。受け入れと育成は主任が担当し、実習依頼校による実習プログラムを基本に、効果的な実習が行えるように努めています。実習終了後は、意見交換の場を設けて実習の効果を挙げるようにしています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な人材の補充は、区との密接な連携のもとに行っています。 ・職員は、園長との年2回の個人面談を通して、職員個々の資質向上に向けた目標を定め、取り組んでいます。 ・人材育成策として、内部研修・園外研修があります。内部研修としては、今年度は4つのプロジェクト（食育、主食提供、地域育児支援、遊びと環境）を組織して取り組んでいます。また、外部の研修会・研究発表大会等へも積極的に参加しています。受講した研修の内容は、ミーティング等で紹介し相互研鑽に努めています。 ・内部研修として取り組んでいるプロジェクトや園外研修の成果は評価検討して、次の研修計画に反映しています。 ・非常勤職員の人材育成は、現在、主に同じクラスの正規職員や主任の指導によっていますが、まだ十分な状況には至っていません。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、職員会議、カリキュラム会議、幼児会議、乳児会議における意見交換を通して、また、工夫・改善した事例を参考にして、個々の職員の自己評価やスキル向上に結び付けています。 ・年2回行われる横浜市総合リハビリテーションセンターによる巡回相談なども、技術の向上につなげています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、本人の適性・経験・能力に応じた役割を与えるため、年度当初の個人面談において、一人ひとりに対する期待水準を明示し、自己研鑽を促しています。また、年度後期には2度目の個人面談を通して、業務実績を把握するとともに、職員の業務満足度の向上に努めています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織及び職員が守るべき法・規範・倫理等は倫理規定や就業規則として明文化されており、職員に周知徹底しています。 ・横浜市の G30 の方針に沿って、子どもたちの遊具 に牛乳パックや段ボールをリサイクルして使用するとともに、クーラーやガス暖房機の適正使用、電気・燃料の節約に努めています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園目標や保育姿勢は職員に周知していて、園目標は事務室及び各クラスに掲示してあります。また、園長は、各職員の園目標や保育姿勢の理解・実践の状況について定期的に確認しています。 ・重要な意思決定にあたっては、関係職員・保護者等から情報・意見を求めたり説明したりする仕組みになっています。 ・スーパーバイズできる主任クラスの育成に関しては、市の人材育成プランによって計画され、実施されています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響する情報は、市や区からの情報の他、新聞や情報誌、保育雑誌等から入手しています。また、園長は、毎月開催の港北区の園長会においても情報を収集し、分析しています。 ・重要な情報は、主要職員間で議論し、重点改善課題として設定しています。 ・運営面での重要な改善課題については、職員会議等で職員に周知して、園全体の取り組みとしています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2007年7月25日～8月15日
- 2、実施方法 事業者から全園児の保護者に直接配付（手渡し）
各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送。
- 3、回収率 約50.6%（85枚配付、43枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...3人、1歳児クラス...9人、2歳児クラス...8人、3歳児クラス...9人、
4歳児クラス...7人、5歳児クラス...7人

ただし同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスについて回答。

設問ごとの特徴

【問1】保育目標や保育方針について

50%強の保護者が「知っている」と答え、「知っている」と答えた全員が「賛同できる」と回答しています。しかし、「説明を聞いていない」と言う方も数名います。

「知っている」は、「よく知っている」と「まあ知っている」をあわせたもの

「賛同できる」は、「賛同できる」と「まあ賛同できる」をあわせたもの

【問2】入園時の状況について

「見学の受け入れ」「入園前の園からの情報提供」「費用やきまりに関する説明」については、80%以上の保護者が「満足」と答えていますが、「保育園での1日の過ごし方についての説明」については、20%以上の保護者が「どちらかといえば不満」と答えています。

「満足」は、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせたもの（以下同様）

【問3】年間の計画について

30%前後の保護者が「不満」と答えています。平日の行事については、保護者が仕事を休まなくてはならないため、説明や配慮を求める意見がありました。

「不満」は、「不満」と「どちらかといえば不満」をあわせたもの（以下同様）

【問4】日常の保育内容について

「遊び」と「生活」については、ほとんどの項目で90%前後の保護者が「満足」と答えており、とくに「基本的な生活習慣の自立への取り組み」については、ほとんどの保護者が満足しています。昼寝やおやつなど子どもの状況に応じた対応と、保育中の怪我に関する説明や対応について配慮を求める意見があります。

【問5】快適さや安全対策などについて

概ね満足という回答となっていますが、トイレやエアコン、網戸などの設備について、改善を求める意見がありました。セキュリティ設備の効果に関しては疑問の声もあります。「感染症の情報提供」について、20%強の保護者が「不満」と答えています。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「園の様子や行事に関する情報提供」や「行事の開催日時や時間帯への配慮」について、20%を超える保護者が「不満」と回答しています。また、「お迎えの時に担任に会えないため、子どもの様子が伝わりにくい」という声が複数ありました。

【問7】職員の対応について

「お子さんが大切にされているか」について95%以上の保護者が満足しています。先生の対応に安心感があり、感謝している声が複数ありました。

【問8】保育園を総合的に評価すると

90%近くの保護者が「満足」と答えています。

【問9】園への要望など

「給食で主食を出して欲しい」「福祉員の交代や職員の異動についての情報を早めに欲しい」などの意見がありました。

まとめ

- ◇ 全体的に、ベテランの職員による安定した保育内容に対して、保護者の満足度は高いと思われます。
 - ◇ ご意見欄に記入があった行事開催日時の決定などについては、保護者の意向を踏まえて話し合いや説明を十分に行い、合意を得る姿勢が望まれます。
- 保護者とのコミュニケーションを深め、園の保育方針や目標を良く理解してもらうことによって、園と保護者の連携が深まり、子どもにとってさらに良い環境となると考えられます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

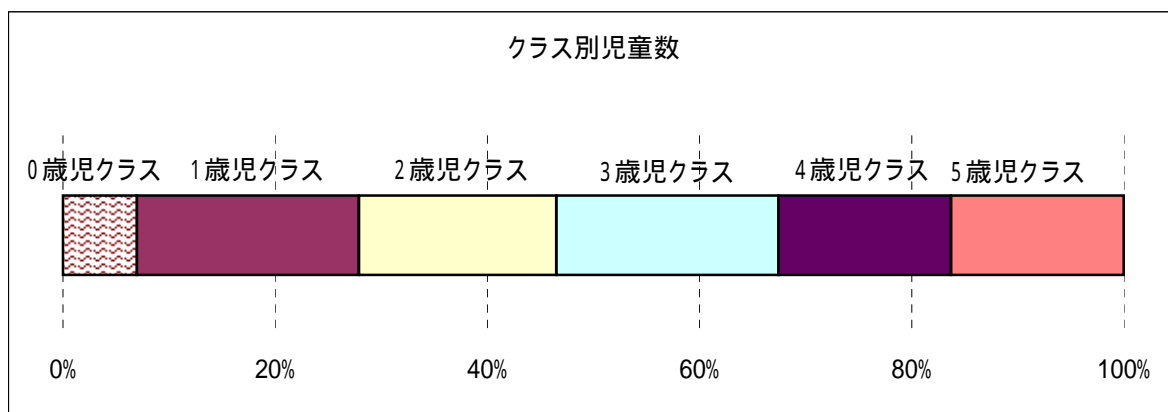
実施期間： 2007年 7月25日～8月15日

回収率： 50.6% （回収43枚 / 配布85枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
43	3	9	8	9	7	7	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どもで記入



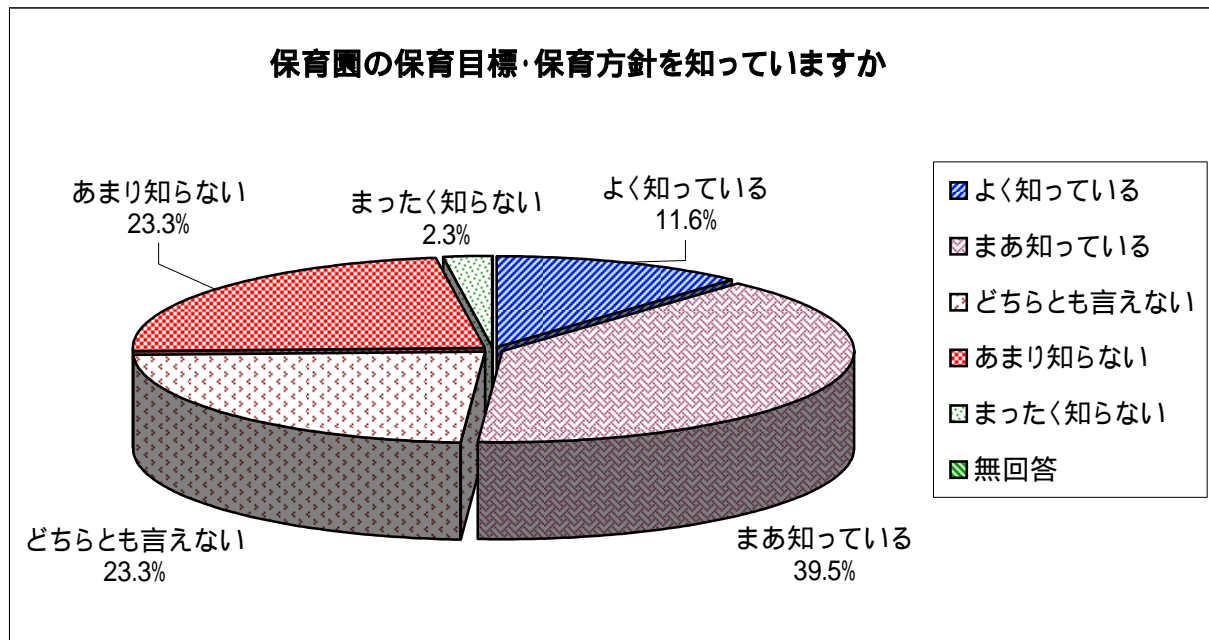
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	11.6	39.5	23.3	23.3	2.3	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

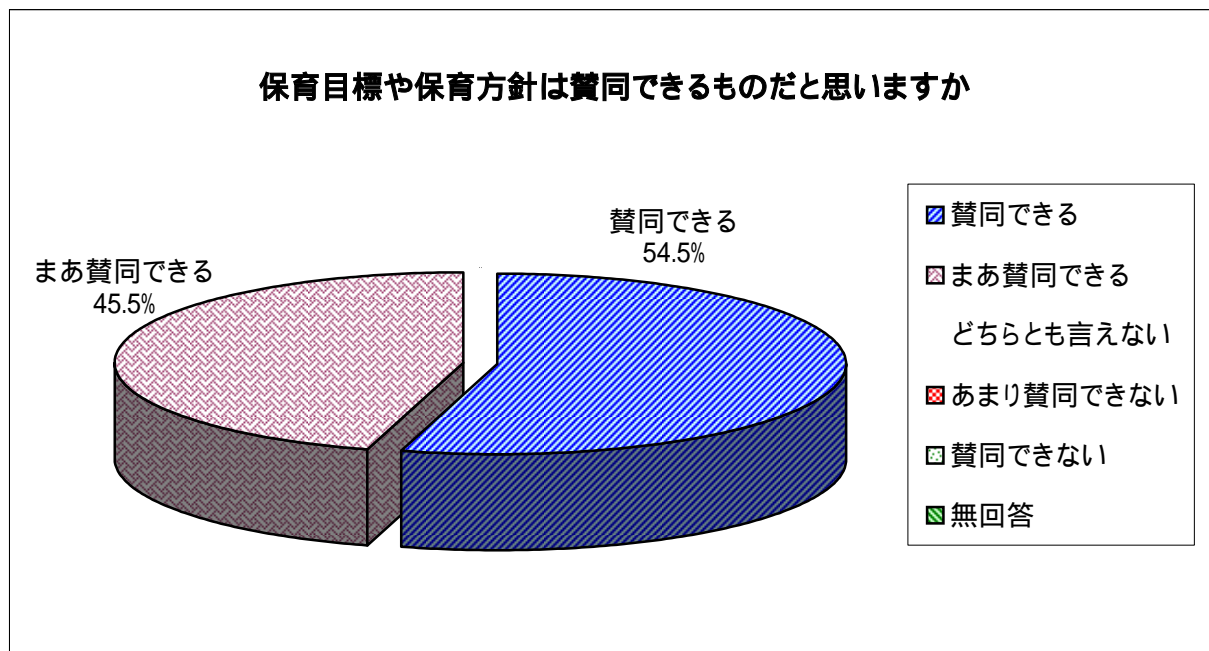


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

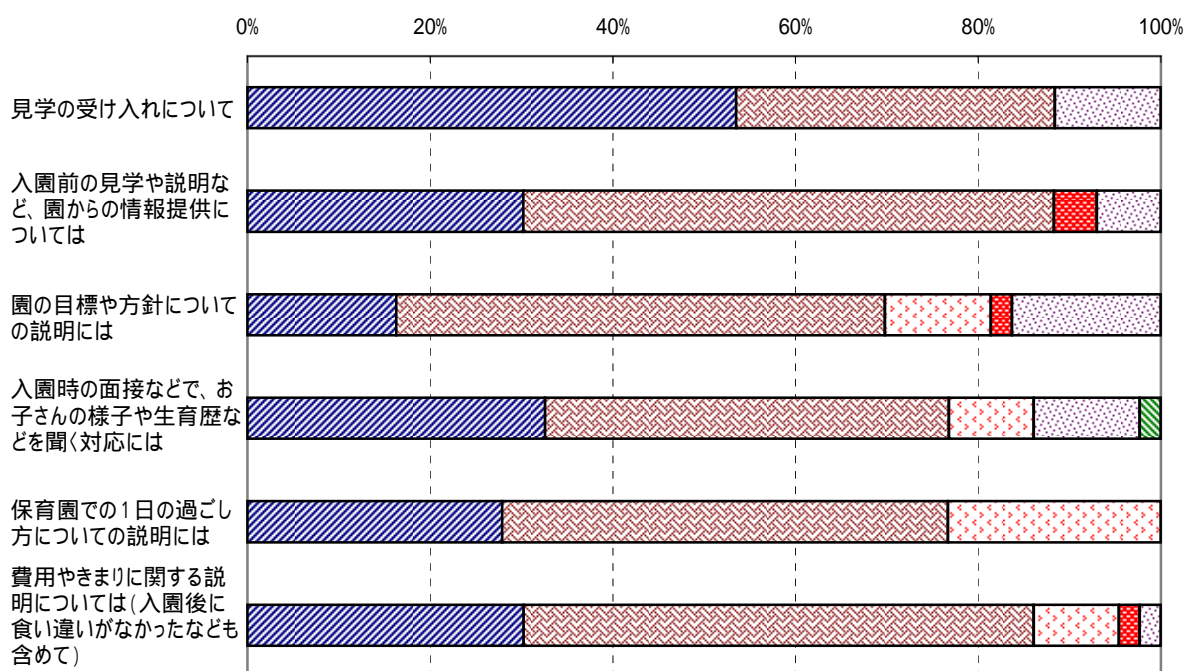
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	53.5	34.9	0.0	0.0	11.6	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	30.2	58.1	0.0	4.7	7.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	16.3	53.5	11.6	2.3	16.3	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	32.6	44.2	9.3	0.0	11.6	2.3	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	27.9	48.8	23.3	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったなども含めて)	30.2	55.8	9.3	2.3	2.3	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



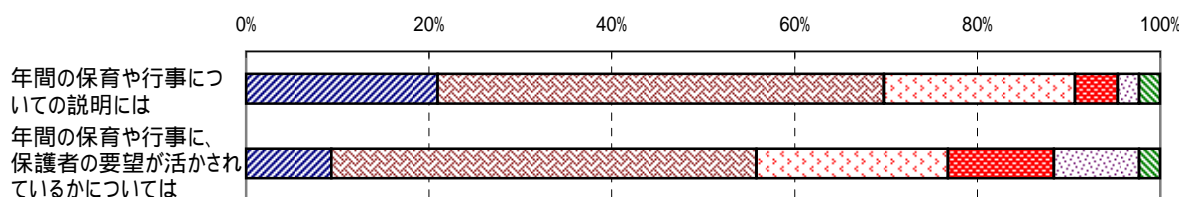
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	20.9	48.8	20.9	4.7	2.3	2.3	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	9.3	46.5	20.9	11.6	9.3	2.3	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

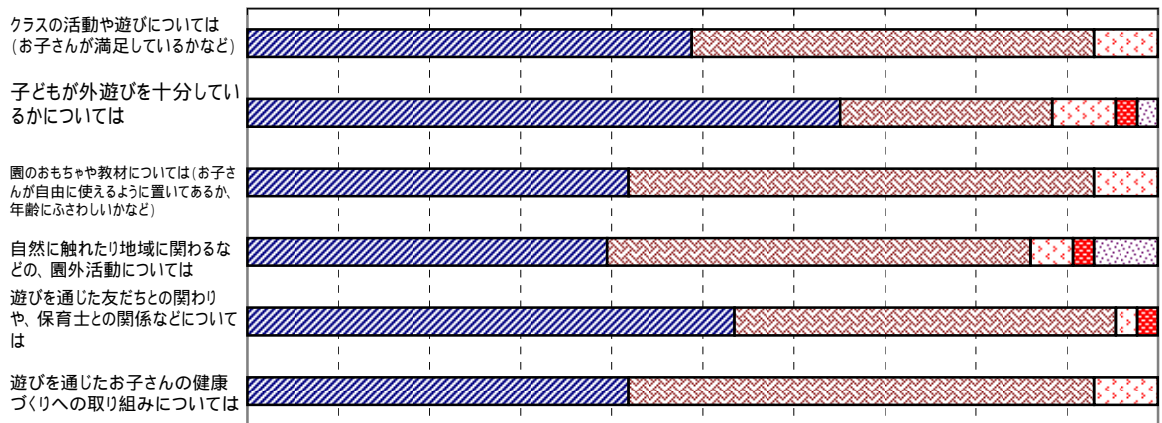
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	48.8	44.2	7.0	0.0	0.0	0.0	100
子どもが外遊びを十分しているかについては	65.1	23.3	7.0	2.3	2.3	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	41.9	51.2	7.0	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	39.5	46.5	4.7	2.3	7.0	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	53.5	41.9	2.3	2.3	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	41.9	51.2	7.0	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



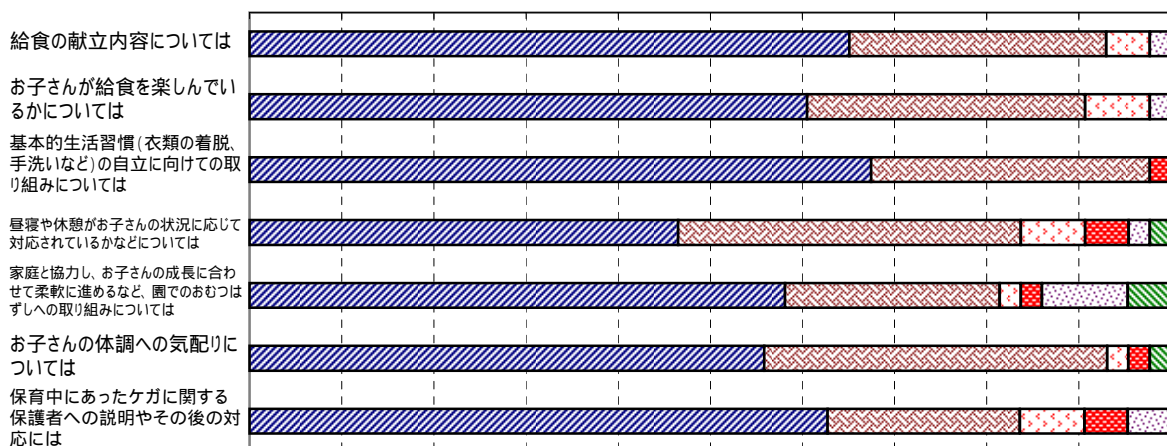
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	65.1	27.9	4.7	0.0	2.3	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	60.5	30.2	7.0	0.0	2.3	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	67.4	30.2	0.0	2.3	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	46.5	37.2	7.0	4.7	2.3	2.3	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	58.1	23.3	2.3	2.3	9.3	4.7	100
お子さんの体調への気配りについては	55.8	37.2	2.3	2.3	0.0	2.3	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62.8	20.9	7.0	4.7	4.7	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



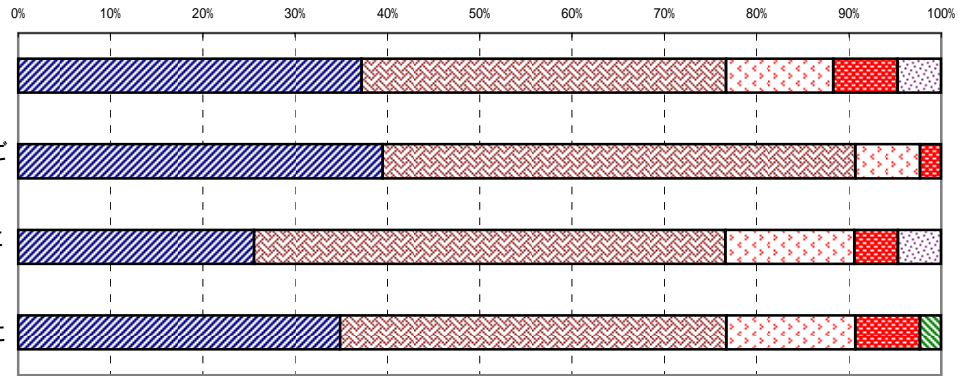
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	37.2	39.5	11.6	7.0	4.7	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	39.5	51.2	7.0	2.3	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	25.6	51.2	14.0	4.7	4.7	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	34.9	41.9	14.0	7.0	0.0	2.3	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



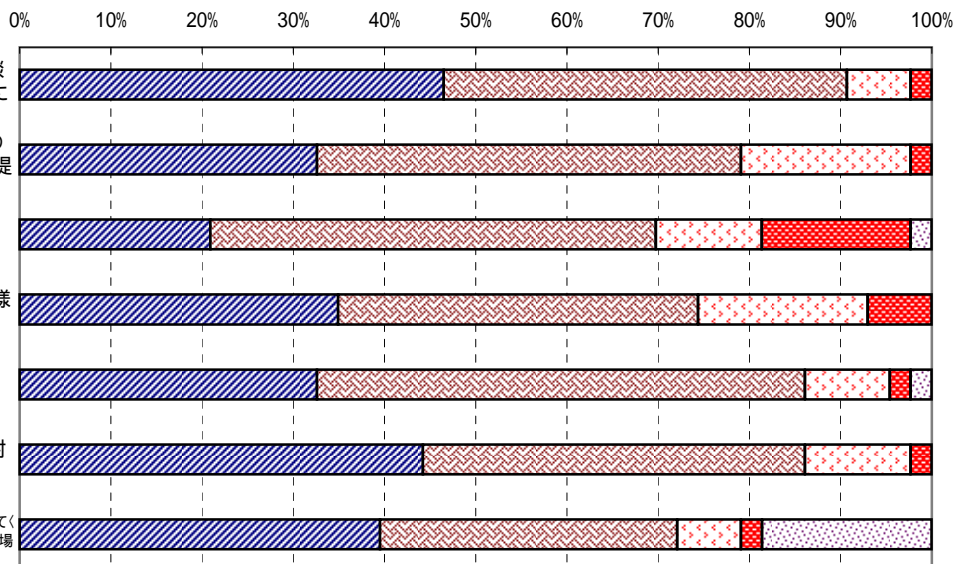
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	46.5	44.2	7.0	2.3	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	32.6	46.5	18.6	2.3	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	20.9	48.8	11.6	16.3	2.3	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	34.9	39.5	18.6	7.0	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	32.6	53.5	9.3	2.3	2.3	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	44.2	41.9	11.6	2.3	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	39.5	32.6	7.0	2.3	18.6	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

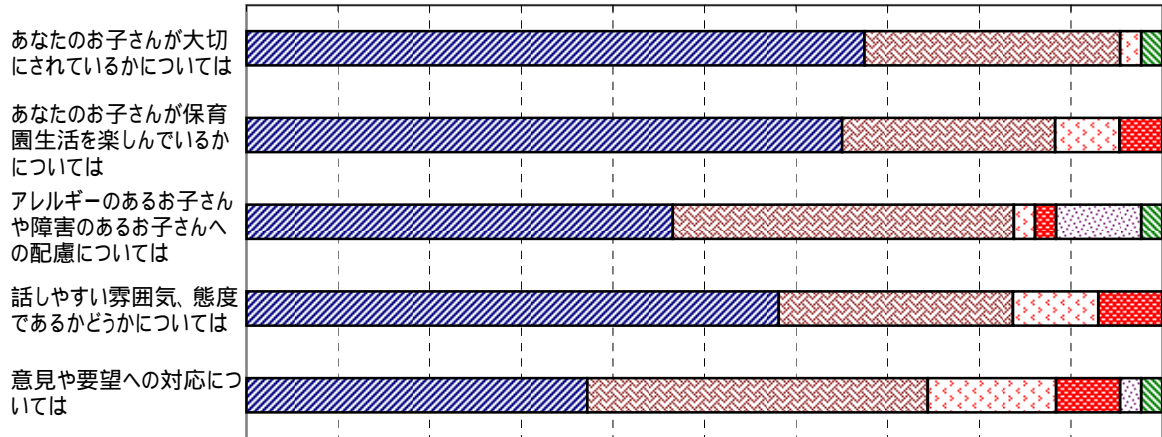
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	67.4	27.9	2.3	0.0	0.0	2.3	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	65.1	23.3	7.0	4.7	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	46.5	37.2	2.3	2.3	9.3	2.3	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	58.1	25.6	9.3	7.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	37.2	37.2	14.0	7.0	2.3	2.3	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

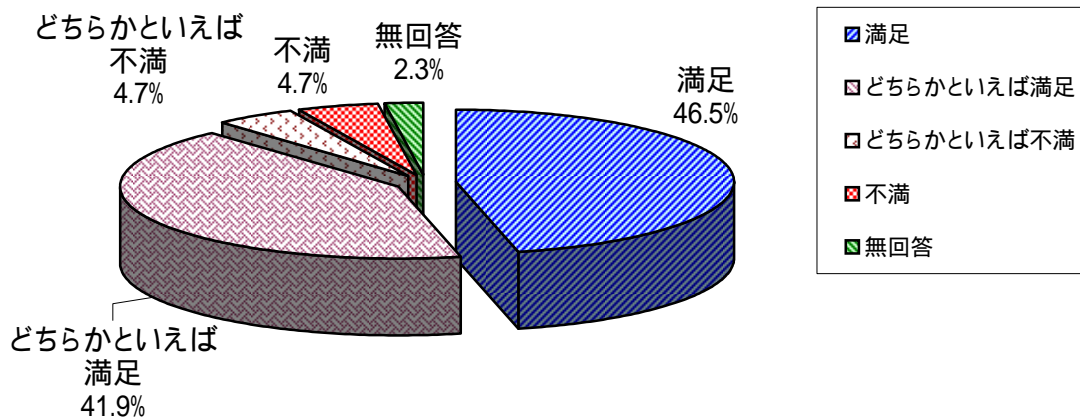


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	46.5	41.9	4.7	4.7	2.3	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査

調査日時 9月25日（月）9:00～17:30 10月3日（水）7:00～17:00

両日とも、9:00～13:00の時間帯を中心に、断続的に保育観察を実施
観察中、5歳以上の園児を中心に適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス

一番小さい子が前年10月生まれで、まだ授乳している子もありますが、ほとんどの子は、もう一人ですっきりと歩くことができます。調査員に対して、興味と親しみを持ち、好きなおもちゃを貸してくれたり、絵本を持ってきて読んで欲しいと意思表示をしたりすることができます。また、園庭に出ることがわかると、帽子のところへ自分から行き、保育士に「とって」と示すしぐさや、靴を自分で履こうとする意欲を見せています。

それぞれ好きなおもちゃがあるようですが、お気に入りのおもちゃで遊んでいるときに他の子どもが入ってきて、取り合いやけんかには至らずお友達に貸してあげることができます。

排泄については、保育士が様子やしぐさから察して、すぐにおむつを替えてもらっています。排便のときにはシャワーできれいにしてもらっています。

子どもたちは、保育士に見守られながら、ゆったりと思い思いに遊びながら過ごしています。

1歳児クラス

子どもたちは人なつこく、「ランチ交流」で参加している地域の親子とも、とても自然に接しています。

保育室では、特に保育士が支援をしなくても、自由に絵本やままごと遊びで遊んでいます。保育士が絵本を読んでくれるときには、集中してしっかりと聞くことができます。

園庭へ出るためには、2Fのベランダから1Fへの階段を、手すりにつかまり自分で下りて行きます。時々、前に進まなくなっても、「～くんも上手」などと保育士に褒められると頑張って最後まで下ります。先に下についた子どもは、最後の子どもが揃うまで、座って話をしながら待っていることができます。

園庭では、主に砂場や三輪車などで遊びます。他の年齢の子どもとも自然と交わることがあり、とくに5歳児と一緒に遊んでいる子どもが多く見られます。

園庭から戻ると子どもたちは、自分で帽子をとって所定の位置にかけ、靴とズボンを保育士に手伝ってもらって脱ぐと、水をはった桶で足を洗います。

おむつの交換の時に、オムツが濡れない子の中には、保育士に誘われてトイレに座っている子どももいます。排便している子どもは、シャワーできれいにしてもらいます。

2歳児クラス

排泄は、ほとんどの子どもが自分でトイレに行くことができますが、衣類の着脱や、トイレの使い方はまだ完全ではなく、見守っている保育士に必要な応じて手を貸してもらっています。

給食の時間には、保育士が献立を絵カードで説明しますが、子どもたちは、小さく切った食材も、もとは何であるかよくわかります。この日は、子どもたちがオクラを収穫して調理員さんに持って行ったものが出され、みそ汁に入れて食べていました。たった1本ですが、とても満足そうでした。一人なかなか食べない子がいましたが、保育士に手伝ってもらいながら、少しずつ食べています。保育士の話では、好き嫌いは半年でだいぶなくなったとのことでした。

保育士が絵本を持ち出すと、子どもたちは自分から椅子に座り、読んでもらっている間、集中して聞いています。人の話を聞くことも、自分のことをしっかりと話すこともでき、明るい子どもたちです。

3歳児クラス

3歳児クラスは、とても元気で活発なクラスです。

時々、わざと乱暴な言葉を使うなど落ち着かないときがあり、保育士に少し厳しく注意される場面もありますが、子どもたち同士で保育士より先に注意し合っていることもあります。けんかが起きると、保育士が事情を聞き、解決のための支援をしてくれます。子どもたちは、保育士に双方から時間をかけて成り行きと思いを伝えると、すぐに仲直りしてまた一緒に遊び始めます。

給食の時間、名前を呼ばれた子どもは、順に自分の食べる分を運びます。食べきれそうにないときは、先に量を減らしてもらいますが、好きな物はおかわりをすることができます。食事中はおしゃべりをしながら食事を楽しんでいます。調理師が給食の様子を見に来ると、子どもたちは、「おいしい」と自分から声をかけ、食材について質問したり、話をしたりしています。

4歳児クラス

保育室内のおもちゃや、クレヨンやはさみ、制作のための素材等は、取り出しやすい場所にあり、自由に使って遊んでいます。園庭で使うおもちゃは倉庫にしまってあり、使いたいときには、保育士に声をかけて取り出して遊びます。室内でも園庭でも、片付けがしやすいようにかごや棚にマークが付いているため、子どもたちは、遊び時間が終わると自主的に片付けをしています。

子どもたちは自由に過ごし、必要に応じて、少し距離を置いて静かに見守っている保育士に助けを求めたり、遊び相手になってもらったりしています。保育士の声のかけ方は静かな語り口で、子どもたちも素直に言うことを聞いています。

子どもたち同士は仲が良く、助け合っている姿が見られます。

5歳児クラス

活発ですが、規律をわきまえた子どもたちです。調査員に対して、「 」です。よろしく願います」という挨拶や、「一緒にかけっこして下さい」と、頭を下げるなどの作法もさりげなく遊びの中に取り入れてしまう闊達さも見られました。

幼児のリズム遊びの時間には、5歳児がお手本として、一番先にピアノに合わせて身体を動かし、4歳児と3歳児の見本になるように張り切っています。最後に全員で歌を歌うときにも、やはり5歳児がリードしながら身体をリズムにのせて歌っています。

自由遊びの時間も、保育士と一緒に身体を動かして遊んでいます。運動会の練習も、一生懸命にとっても楽しそうに取り組んでいます。待ち時間などは、自然と手遊び歌などが出てきてみんなで楽しみ、大きくて重いマットの片付けなども、みんなで力を合わせて手際よく片付けるなど、とても仲の良いチームワークのとれたクラスです。

給食の支度も、エプロンを掛けた当番の子どもを中心にてきばきと配膳していきます。給食が全員に行き渡ると、食べきれないと思う子どもは保育士に量を減らしてもらい、みんなでおしゃべりをしながら食事を楽しみます。

まとめ

全体的に、自由遊びの時間が十分に確保され、子どもたち一人ひとりが、自分のペースで自由に伸び伸びと園生活を楽しんでいます。

また、子どもたちは、自分に自信を持ち、年齢に応じた節度を身につけ、お友達や保育士、地域の大人とも自然に関わっています。

事業者コメント

福祉サービス第三者評価を受審して

今回の受審を振り返る時、評価についての話し合いの過程が大変貴重だったということを実感しています。その話し合いの中で、港北保育園のこれから取り組むべき課題が整理され、方向性が示されたことが大きな収穫でした。

今、港北保育園は「地域子育て支援」に力を注いでいます。今回の受審で港北保育園の「地域子育て支援事業」に高い評価をいただきました。この評価結果は、私たち職員の励みです。

一方、保育園の保育及び事業を進めるに当たって欠くことのできない「保護者の理解と協力をどう得ていくか」ということ、「アルバイトを含めた職員の資質向上と職域、職種を超えた職場内のコミュニケーションのあり方」、「震災、事故、ケガ等に対する安全対策、安全管理の問題」について、これからの一層の工夫と対応が課題として示されました。

受審に当たっては、職員全体で、調査員の方々と一緒に「保育園のよりよい方向」を考え、実行して行く過程であると捉え、すぐできるものはすぐに改善を行い、結果を出すのに時間が必要な課題に対しては、まず始められることからやっいていこうと意思統一していました。したがって、受審結果が出された後すぐに、「保護者に対して苦情解決機関の周知の徹底」、「耐震装置の購入」、「避難訓練計画の見直し」などの対応を行いました。

この受審を機に、多くの気づきを得て、保育園の取り組むべき課題の整理ができたことに対して、市民セクターよこはま、とりわけ調査スタッフの方々にあらためて感謝申し上げます。またここから、私達もさらに前に進んでいきたいと思えます。

港北保育園長 松沢 正子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-26 洋服会館 2F

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
